

第2節 国家資格に基づく専門職の違い

— 看護師、幼稚園教諭・保育士、栄養士 —

長尾 由希子（聖カタリナ大学）

本節では、それだけで食べていくことのできる“生業”となり得る国家資格に基づく職業のうち、就業者数の多い看護師（平成17年度の国勢調査で1,106,795人）、幼稚園教諭・保育士（合わせて515,695人）、栄養士（102,895人。ただし管理栄養士も含むと思われる）の3職種を取り上げ、同じ国家資格職の中でもどのような違いがあるのかを確認する。

表1 看護師、幼稚園教諭・保育士、栄養士の養成状況

	看護師	幼稚園教諭	保育士	栄養士
国家資格の種類	業務独占	業務独占	名称独占 (H13～法改)	名称独占
単位数	97	124(一種)/62(二種)	68	62
高卒+修業年限	3年以上	2年以上	2年以上	2年以上
国家試験	あり	なし	なし	なし
養成施設別の当該職への就職率	専>短>大 大学でも高い	大>短>専	短>専>大	専>短>大
養成施設別の輩出人数	専>大>短	短>大>専	短>専>大	短>専>大
就業者(平成17年度国勢調査)	1,106,795	96,399	419,296	102,895

国家資格とは、国で品質保証をする必要があると考えられている資格である。そのため、厚生労働省の管轄する医療系・衛生系の資格が多い。看護師、保育士、栄養士は厚生労働省の管轄である。幼稚園教諭は現時点で文部科学省の管轄であり、このため保育関連の制度は複雑になっていることが知られている。この点は後の論稿で改めて明らかにされる。

また、看護師と幼稚園教諭が業務独占資格、保育士と栄養士は名称独占資格であるが、保育士と栄養士も実際の求人では資格を求められることが一般的であるため、実質的にはこれらの資格を有していなければ保育士や栄養士として就職することはほぼできない。

しかし、これら3職種の養成状況は多様である（表1）。ここでは、1）国家試験の有無や養成にかかる年数・必修単位数、2）出口としての当該職への就職状況の2つの観点から比較する。

まず、1）国家試験の有無や養成にかかる年数・必修単位数について比較する。

看護師は高卒後3年以上の修業年限で必要な97単位の学科を修めると国家試験受験資格を得ることができる。しかし、あくまでも受験資格に過ぎず、さらに国家試験を受けて合格しなければ看護師になることはできない。これに対して幼稚園教諭や保育士、栄養士は国家試験を受験する必要がなく（4年制の管理栄養士を除く）、高卒後2年の修業年限で単位数は62ないし68である。

単位数を1年間当たりに換算すると、3つの職種とも大差はないように見える。しかし実際は、看護師は保健師や助産師の資格などを同時に取得することが多く、幼稚園教諭も保育士と同時に取得するケースが多いため、カリキュラムは非常にタイトなものになっている。これらに比べれば、相対的に栄養士の単位数は少ないが、2年制の短大や専門学校の卒業必修に等しい単位数が定められているため、特にゆとりがあるという訳でもない。

次に、2）それぞれの資格取得から当該の職への就職状況を比較する。

まず看護師について、平成21年度の『看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査』によれば、養成所別の進路は次の表2の通りである。養成所別の看護師就職率は、専門学校が9割以上と最多で、次に短大、大学の順に少なくなる。とはいえ、大学の場合でも7割以上が看護師になる。

表2 看護師養成における養成所別進路

大学						
卒業生数	保健師	助産師	看護師	看護業務以外	進学	その他
10,560人	734	588	8,207	197	496	338
%	7.0	5.6	77.7	1.9	4.7	3.2
短大(3年)						
卒業生数	保健師	助産師	看護師	看護業務以外	進学	その他
1,740人	0	0	1,348	12	250	130
%	0.0	0.0	77.5	0.7	14.4	7.5
短大(2年)						
卒業生数	保健師	助産師	看護師	看護業務以外	進学	その他
364人	0	0	326	0	9	29
%	0.0	0.0	89.6	0.0	2.5	8.0
専門学校など(3年)						
卒業生数	保健師	助産師	看護師	看護業務以外	進学	その他
19,958人	0	0	18,191	247	917	603
%	0.0	0.0	91.1	1.2	4.6	3.0

『看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査』(平成21年度)

また、輩出する人数のボリュームについては専門学校が18,191人と最多で、次に大学が8,207人と続く。短大は2年制3年制合わせても2,000人に満たない。これは、看護師養成の中心が急激に専門学校から四大へシフトしてきたためであると思われる。

栄養士については、表3の通りである。養成施設⁽¹⁾別の栄養士就職率は、専門学校が7割以上と最多で、次に短大4割強、大学3割弱と順に少なくなる⁽²⁾。しかし、栄養士の輩出人数で最も多いのは短大の3,755人で、専門学校はその半数以下の1,763人である。

表3 栄養士の養成施設別進路

専門学校			
卒業生数	栄養士	その他の業務就職者	未就職者
2,342人	1,763	262	317
%	75.3	11.2	13.5
短大			
卒業生数	栄養士	その他の業務就職者	未就職者
8,424人	3,755	2,791	1,878
%	44.6	33.1	22.3
四大			
卒業生数	栄養士	その他の業務就職者	未就職者
953人	255	565	133
%	26.8	59.3	14.0

全国栄養士養成施設協議会「就職実態調査」(平成20年度)

保育士については、表4の通りである⁽³⁾。養成施設別の保育所保育士就職率は、短大が若干高いものの、専門学校と概ね同じで5割弱、大学は4割に満たない。しかし

輩出人数を見ると、短大は14,397人で、続く専門学校の2,436人とは大きな開きがある。

幼稚園教諭については、後の章で詳しく説明がなされる。

こうして比較すると、いずれの職でも専門学校は当該の職に就職する者

表4 保育士養成施設で保育士資格を取得した卒業生の就職先

大学					
卒業生数	保育所保育士	幼稚園教諭	児童福祉施設保育士	児童事業及び知障者施設等	その他
5,956人	2,128	1,357	171	312	1,988
%	35.7	22.8	2.9	5.2	33.4
短大					
卒業生数	保育所保育士	幼稚園教諭	児童福祉施設保育士	児童事業及び知障者施設等	その他
30,238人	14,397	6,397	841	1,947	6,656
%	47.6	21.2	2.8	6.4	22.0
専門学校					
卒業生数	保育所保育士	幼稚園教諭	児童福祉施設保育士	児童事業及び知障者施設等	その他
5,196人	2,436	907	259	555	1,039
%	46.9	17.5	5.0	10.8	20.0

厚生労働省「第1回保育士養成課程等検討会」(平成21年度)

の比率が高いことがわかる。つまり、ゴールが明確に収斂している。しかしそれは、それぞれの職で専門学校が多く人数を輩出しているかどうかということとは関係がない。看護師では今も専門学校が最大の輩出母体であるが、保育士と栄養士では短大が最大の輩出母体である。

これは、輩出母体については上述のように看護師の場合は急激に専門学校から四大へと養成施設がシフトしたが、職種ごとに歴史的展開が異なるためであり、当該専門職への就職率は職種を問わず専門学校で高いのではないかと推察される。

このように、3つの職種それぞれで学校種ごとに就職率や輩出数が異なるが、養成段階におけるカリキュラムは、いずれの職種内においても国の法律によって基本的には同じはずである。果たしてそれぞれの職種で、学校種ごとの就職率や輩出数とカリキュラムの間に関係はあるのか。カリキュラムには自由度はあるのか。以下、それぞれの節で検討を行う。

〈註〉

- (1) 養成機関を、養成所というか養成施設というかは、それぞれの職によって異なっている。看護師の場合は養成所と呼び、幼稚園教諭や保育士、栄養士の場合は養成施設と呼ぶ。
- (2) 大学は既に栄養士よりも養成に4年間かかる管理栄養士養成にシフトしており、栄養士としての輩出人数も少ない。
- (3) 施設名に関する表記は、厚生労働省資料の原典より。「知障者施設等」とは、原典の「知障者施設」「身障者施設」「老人施設」をまとめたものである。

〈引用・参考文献〉

- 厚生労働省「第1回保育士養成課程等検討会／参考資料1 保育士養成関係資料」<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1116-7.html>（最終検索2015年8月25日）
- 社団法人日本看護協会，<http://www.nurse.or.jp/index.html>（最終検索2011年2月25日）
- 社団法人全国保育士養成協議会，<http://hoyokyo.or.jp/>（最終検索2011年2月25日）
- 社団法人全国栄養士養成施設協会，<http://www.eiyo.or.jp/>（最終検索2011年2月25日）